

1

問題のページへ

(1) 加法定理を利用すると,

$$\begin{aligned} & (\cos \alpha + i \sin \alpha)(\cos \beta + i \sin \beta) \\ &= \cos \alpha \cos \beta - \sin \alpha \sin \beta + i(\sin \alpha \cos \beta + \cos \alpha \sin \beta) \\ &= \cos(\alpha + \beta) + i \sin(\alpha + \beta) \end{aligned}$$

(2)  $z = \sum_{k=1}^n \left( \cos \frac{2k\pi}{n} + i \sin \frac{2k\pi}{n} \right)$  のとき, (1) より,

$$\begin{aligned} z \left( \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} \right) &= \sum_{k=1}^n \left( \cos \frac{2k\pi}{n} + i \sin \frac{2k\pi}{n} \right) \left( \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} \right) \\ &= \sum_{k=1}^n \left( \cos \frac{2(k+1)\pi}{n} + i \sin \frac{2(k+1)\pi}{n} \right) \\ &= \sum_{k=2}^{n+1} \left( \cos \frac{2k\pi}{n} + i \sin \frac{2k\pi}{n} \right) \dots\dots\dots \end{aligned}$$

ここで,  $\cos \frac{2(n+1)\pi}{n} + i \sin \frac{2(n+1)\pi}{n} = \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n}$  より,

$$\sum_{k=2}^{n+1} \left( \cos \frac{2k\pi}{n} + i \sin \frac{2k\pi}{n} \right) = \sum_{k=1}^n \left( \cos \frac{2k\pi}{n} + i \sin \frac{2k\pi}{n} \right) \dots\dots\dots$$

$$\text{よ} \text{り, } z \left( \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} \right) = z$$

(3) (2) より,  $z \left( \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} - 1 \right) = 0 \dots\dots\dots$ さて,  $n \geq 2$  より  $0 < \frac{2\pi}{n} < \pi$  となり,  $\cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} \neq 1$ よって, から  $z = \sum_{k=1}^n \left( \cos \frac{2k\pi}{n} + i \sin \frac{2k\pi}{n} \right) = 0$  となり, 実部, 虚部を比べ,

$$\sum_{k=1}^n \cos \frac{2k\pi}{n} = \sum_{k=1}^n \sin \frac{2k\pi}{n} = 0$$

## [ 解 説 ]

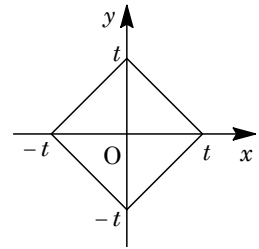
現行の課程では複素数が冷遇されているため, 複素数の極形式に関する問題は, あまり見かけなくなりました。しかし, 次の課程では復活しますので, その先取りでしようか。

2

問題のページへ

(1)  $t > 0$  のとき,  $|x| + |y| = t \dots\dots$  に対して,

- (i)  $x \geq 0, y \geq 0$  のとき  $x + y = t$
- (ii)  $x \leq 0, y \geq 0$  のとき  $-x + y = t$
- (iii)  $x \leq 0, y \leq 0$  のとき  $-x - y = t$
- (iv)  $x \geq 0, y \leq 0$  のとき  $x - y = t$



(i) ~ (iv) より,  $|x| + |y| = t$  で表される図形は右図の正方形である。

(2)  $a > 0$  のとき, 連立不等式  $ax + (2-a)y \geq 2 \dots\dots$ ,  $y \geq 0 \dots\dots$  で表される領域は, まず  $y = 0$  の境界線  $ax + (2-a)y = 2 \dots\dots$  ' に対して,

$$a(x - y) + 2y - 2 = 0$$

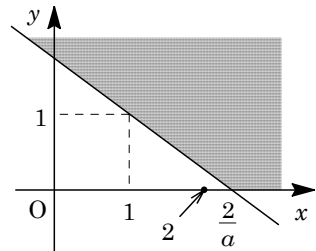
すると,  $0$  以上の任意の実数  $a$  に対して,  $x = y = 1$  で成立することから, 直線 ' はつねに点  $(1, 1)$  を通る。また, 直線 ' は,  $a = 0$  のとき  $y = 1$  となり  $x$  軸に平行になり,  $a > 0$  のとき  $x$  軸と交わり, その交点は点  $(\frac{2}{a}, 0)$  である。

さらに,  $x = y = 0$  のとき  $ax + (2-a)y \geq 2$  は成立しないので, 不等式  $ax + (2-a)y \geq 2$  の表す領域は, 直線 ' を境界線とする原点を含まない側である。

(i)  $a = 0$  または  $\frac{2}{a} \geq 2$  ( $0 < a \leq 1$ ) のとき

連立不等式  $ax + (2-a)y \geq 2$  かつ  $y \geq 0$  で表される領域は右図の網点部となり,  $y$  軸との交点  $(0, \frac{2}{2-a})$  で,  $|x| + |y|$  は最小値

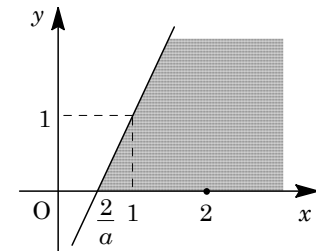
$$m = \frac{2}{2-a}$$



(ii)  $0 < \frac{2}{a} < 2$  ( $a > 1$ ) のとき

連立不等式  $ax + (2-a)y \geq 2$  かつ  $y \geq 0$  で表される領域は右図の網点部となり,  $x$  軸との交点  $(\frac{2}{a}, 0)$  で,  $|x| + |y|$  は最小値  $m = \frac{2}{a}$

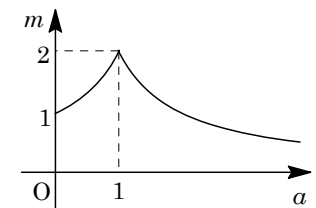
をとる。



(i)(ii) より,  $|x| + |y|$  の最小値  $m$  は,

$$m = \frac{2}{2-a} \quad (0 < a \leq 1), \quad m = \frac{2}{a} \quad (a > 1)$$

(3) (2) より,  $a$  と  $m$  の関係をグラフに表すと右図のようになり,  $a = 1$  のとき  $m$  は最大値  $2$  をとる。



[ 解説 ]

不等式  $ax + (2-a)y \geq 2$  で表される領域を把握するために, あの手この手を用いています。これは, 極力, 場合分けを避けるためです。

3

問題のページへ

$$(1) \int_n^{n^3} \frac{dx}{x \log x} = \int_n^{n^3} \frac{1}{\log x} \cdot \frac{1}{x} dx = \left[ \log |\log x| \right]_n^{n^3} = \log |3 \log n| - \log |\log n|$$

$$= \log \left| \frac{3 \log n}{\log n} \right| = \log 3 \dots\dots\dots$$

$$(2) x > 1 \text{ において, } f(x) = \frac{1}{x \log x} \text{ とおくと, } f'(x) = -\frac{\log x + 1}{(x \log x)^2} < 0$$

これより,  $k \geq 2$  のとき,  $k \leq x \leq k+1$  において,  $f(k+1) \leq f(x) \leq f(k)$  となり,

$$\frac{1}{(k+1) \log(k+1)} \leq \frac{1}{x \log x} \leq \frac{1}{k \log k}$$

この不等式の各辺を  $k$  から  $k+1$  まで積分すると,  $\int_k^{k+1} dx = 1$  から,

$$\frac{1}{(k+1) \log(k+1)} < \int_k^{k+1} \frac{dx}{x \log x} < \frac{1}{k \log k} \dots\dots\dots$$

(3) の各辺を  $n$  から  $n^3 - 1$  まで和をとると,

$$\sum_{k=n}^{n^3-1} \frac{1}{(k+1) \log(k+1)} < \sum_{k=n}^{n^3-1} \int_k^{k+1} \frac{dx}{x \log x} < \sum_{k=n}^{n^3-1} \frac{1}{k \log k}$$

$$S_n = \sum_{k=n}^{n^3-1} \frac{1}{k \log k} \text{ より, } \sum_{k=n}^{n^3-1} \frac{1}{(k+1) \log(k+1)} = S_n - \frac{1}{n \log n} + \frac{1}{n^3 \log n^3} \text{ となり,}$$

$$S_n - \frac{1}{n \log n} + \frac{1}{n^3 \log n^3} < \int_n^{n^3} \frac{dx}{x \log x} < S_n \dots\dots\dots$$

$$\text{より, } \log 3 < S_n < \log 3 + \frac{1}{n \log n} - \frac{1}{n^3 \log n^3}$$

以上より,  $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \log 3$

### [ 解 説 ]

はさみうちの原理を利用して極限值を求める問題ですが, 方針に迷うことがないよう, たいへん丁寧な誘導がついています。

4

問題のページへ

- (1) 整式  $x^3 + 3x^2 - 14x + 6$  を整式  $x^2 - 2x$  で割ると,  

$$x^3 + 3x^2 - 14x + 6 = (x^2 - 2x)(x + 5) - 4x + 6$$

よって、商は  $x + 5$ 、余りは  $-4x + 6$  である。

- (2) (1)より、 $X = Y(a + 5) - 4a + 6 \dots\dots(*)$ となり、  

$$(-X + 5Y + 6) + (Y - 4)a = 0$$

$X$  と  $Y$  は有理数、 $a$  は無理数から、 $-X + 5Y + 6 = Y - 4 = 0$

よって、 $X = 26$ 、 $Y = 4$

- (3)  $Y = 4$  より、 $a^2 - 2a - 4 = 0$  となり、 $a > 0$  から、 $a = 1 + \sqrt{5}$   
 このとき、 $(*)$  から、 $X = 26$  となる。  
 よって、 $a = 1 + \sqrt{5}$

### [ 解 説 ]

有理数と無理数を題材に、除法に関する等式をからめた問題です。計算も穏やかで文系風ですが、内容は受験生の意表を突くものです。

5



問題のページへ

$$(1) f(x) = x - 2\log x \text{ とおくと, } f'(x) = 1 - \frac{2}{x} = \frac{x-2}{x}$$

$x > 1$  において,  $f(x)$  の増減は右表のようになり,

$$f(2) = 2 - 2\log 2 = 2(\log e - \log 2) > 0$$

よって,  $x > 1$  のとき  $f(x) > 0$  から,  $x > 2\log x$

$x$	1	...	2	...
$f'(x)$		-	0	+
$f(x)$				

$$(2) \text{ まず, } n=1 \text{ のとき, } 0 < 1 \text{ から } (2n \log n)^n < e^{2n \log n} \text{ は成立する。}$$

次に, 2 以上の自然数  $n$  に対して, (1) より,  $2\log n < n$  となり,  $2n \log n < n^2$

ここで, 対数関数は単調増加関数より,

$$\log(2n \log n) < \log n^2, \quad n \log(2n \log n) < 2n \log n, \quad \log(2n \log n)^n < 2n \log n$$

よって,  $(2n \log n)^n < e^{2n \log n}$  が成立する。

### [ 解 説 ]

(2) は結論を同値変形したものを, 順序を変えて記したものです。最後の問題なので, ひとひねりあるかとも思ったのですが.....。